

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4492200011		
法人名	医療法人 久寿会		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	大分県速見郡日出町大字藤原1691-1		
自己評価作成日	平成21年10月30日	評価結果市町村受理日	平成21年6月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://ap.oita-kaigo.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4492200011&SCD=370>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成21年11月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

チームワークの取れた職員が、利用者とともに家族のような関係を築き、安心して暮らせるように援助しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・家族との信頼関係ができており、意見や要望を出しやすい雰囲気が出ています。
- ・デイケアセンターが併設されており、日常的に友人や知人との交流ができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示を行い、また申し送り等を通じ、全職員で理念を共有し、日々のサービスに反映させていく	理念の表示は行っているが、他の掲示物と一緒に掲示しており、小さくて見づらい。職員全員での理念の共有が不十分であり、日々のサービスに反映するには至っていない。	理念を職員および外来者にも見やすいように掲示し、全職員で共有して、実践につなげていくよう期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事のお接待で近隣の家庭を訪問したり、老人会の方がホームへ訪れ、敬老のお祝いをしてくれる事もある	法人が自治会に加入しており、地区の行事に参加することはあるが、事業所として地域との積極的なつきあいへの取り組みは、不十分である。	運営推進会議、地域の老人会などを通して、地域の会合などに出向き、認知症についての啓発活動を行うなど、積極的に地域との交流を図ることが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	取り組みはできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域関係者の参加ができていない。	運営推進会議は年2回開催している。会議は、地域の代表などの出席がないため、事業所の行事報告が主になっており、意見をサービス向上に活かす取り組みはできていない。	今後は地域の代表者も参加してもらい、2ヶ月に1回は開催し、外部評価結果を報告し、モニター役になってもらったり、地域との関わりについて話し合いを行い、会議での意見をサービスの向上に活かしていくことが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営等手続きなど、その都度相談し、解決している	運営などの手続きで、その都度相談はしているが、積極的な働きかけは行っていない。	サービスの向上のため、積極的な働きかけを行い、市との協働関係を築いていくことが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、外へでる際はさりげなく付き添っている。また、扉に鈴をつけ、開閉時の合図になっている	利用者が外出しそうな時は、さりげなく声をかけたり、一緒について行くなど、安全で自由な暮らしを支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に皮膚観察や怪我の確認を行い、怪我に関してはどのようになったかを職員で話し合いを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症のある利用者に関しては家族やその他関係者との話し合いを設けるように努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は項目の確認を行い、理解・納得ができるように説明し、その後も質問などに答えられるように対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは意見や要望を話しやすい関係作りを行い、面会時等に意見や相談を行っている。また、家族の意見をもとに、運営や介護の改善を行っている	ほとんどの家族が毎日、面会に来ている。家族が、意見や要望を言いやすい関係を築いていて、相談などもしている。面会の少ない家族には、電話や手紙で意見を聞いている。また、意見や要望をもとにミーティングを行い、運営やケアの改善に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見・要望を会議の中で相談を行っている	月1回話し合いを行い、意見交換を行っている。運営に関する意見や要望を、書面で提出したり、年1回の自己評価を実施し、その結果を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表の確認、その都度の勤務変更等柔軟に対応ができています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加、内部研修参加を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議の参加を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時は、常に関わり傾聴することに心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時は、常に関わり傾聴することに心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	傾聴の中での確認を行い、支援方法の決定につなげている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に子育ての話を聞いたり、過去の生活の知恵や経験を教えてもらい、お互いに支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の要望や職員の希望等、常に話し合い職員も一家族であるように対応している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に家族の面会があり、また自宅に外出をしたりできるように心がけている	必要な物を自宅に取りに帰ったり、初盆のために帰宅して、掃除などで近所の方の手を借りたりしている。また、併設のデイサービスを利用する知人などの訪問も時々ある。	利用者1人ひとりの、これまでの地域社会との関わりを把握し、その人らしく生きるために馴染みの人との交流が継続できるように支援していくことが期待される。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いを思いやれる関係ができるように、利用者間に関わり、孤立しないように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等あっても、様子の確認へ		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望や意向の把握を行っているが、申し送りがうまくできないことがあり、伝わっていない事がある	日々の関わりの中で、1人ひとりの希望や意向の把握に努めているが、全職員での情報の共有が不十分である。	申し送りの方法や記録を整理して、全職員で情報の共有ができるよう工夫することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート等活用し把握を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシート等活用し把握を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別カンファレンスにて状態の把握を行い介護を実践している	利用者や家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させている。また、職員全員でケアカンファレンス、モニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルの作成を行い日々の状態の把握に努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の意向を聞き、できる限り対応ができるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族との協働が主であるが、本人の力が発揮できるような暮らしができるように努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望をもとに、併設病院以外にも協力医や専門医と連携を取りながら医療が受けられる支援をしている	事業所の協力医のほか、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。基本的には家族同伴の受診となっているが、職員が代わりに同行するなど、柔軟に対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常において観察を行い、変化がある場合は常に職場の看護師に相談し、主治医に報告ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の経過観察を行うとともに、病院関係者とは情報交換に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約書をもとに急変時の対応や重度化した場合についての方針を話している	入居時と、重度化した場合に、終末期のあり方について家族などと話し合い、説明を行っている。全職員で方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や緊急時初期対応の実践力は十分ではない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施、災害時マニュアルの作成を行った	職員は災害時マニュアルに基づいて、年2回、法人の避難訓練に参加している。利用者を含めての避難訓練や地域の協力体制は、できていない。	事業所独自で、利用者も参加した日中、夜間を想定した避難訓練の実施、自治会や運営推進会議などを通して地域との協力体制を構築していくことが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いはわかりやすい場所へ掲示し、必要な際は適切な助言、指導を行い、その都度対応をしている	個人情報の取り扱いに関する掲示は、行われている。日常生活においても、管理者はその都度、助言、指導をしたりと、利用者の尊厳を損なわないための配慮をしている。	誇りやプライバシーの確保について、職員全員で常に具体的に確認し合い、馴れ合いにならないよう、1人ひとりを尊重することができるように、研修会などで学習の機会を増やしていくことが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定できるような声かけを行う		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを大切に、できる限り自宅での生活スタイルを崩さないような対応を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつでも清潔な服装を心がけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下準備の手伝い・片付け等利用者の力を活かし、可能な限り一緒に行う	献立、食材の準備は法人で行い、事業所でその日の担当者が調理をしている。1人ひとりの状態に合わせた食事形態などを考え、食事の提供をしている。一連の流れの中での利用者の能力を活かした支援はなく、利用者と職員は一緒にテーブルで食事をしていない。	食事を楽しめるように、準備などの作業を利用者と職員と一緒に、一緒に食事を味わうなどの支援が望まれる。事業所の特性を踏まえて、食事を楽しめる環境作りを、運営面も含めて検討することが期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた、摂取しやすい食事の形態を把握し、実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人ごとの口腔ケアの援助を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄ができるように誘導を行っている	排泄チェック表や利用者の動作などでパターンを把握し、トイレでの排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りのおやつや飲み物にて、繊維の多い食品を取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるように対応。利用者の体調や希望に合わせて対応している	午前、午後、夕方と希望に応じた入浴支援を行っている。入浴拒否の場合などは、身体機能や状況に応じて清拭などで対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中安心して静養ができるようにソファを使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より内服薬の情報提供を受けている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に応じた役割を日々取り入れるように工夫している(洗濯たたみ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の希望があれば、職員や家族が対応できるように支援している	希望者には時々、散歩や買い物の支援をしている。しかし、基本的には、屋内で過ごすことが多い。	気候や状況に応じて、外出を楽しむことや、習慣、有する能力などを考え、屋内に閉じこもらず、1日1回は、戸外の空気に触れるような支援が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の金銭を所持している利用者に対しては、希望に応じて買い物援助を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には、いつでも家族に電話ができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には利用者が作成した作品の掲示等行い、くつろぎやすい空間を作るように努力している	共用空間には、利用者の作品が、雑然と貼られているため、季節感や家庭的な雰囲気が損なわれている。	事業所の特性や防災面も考慮し、季節感や生活感があって、居心地良く過ごせる環境について職員で話し合い、家庭的な落ち着きのある空間となるよう工夫することが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でのテーブルで気の合う仲間といつでも話せるように、座席に気をつけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を持ち込み、安心して過ごせるような環境作りに心がけている	家族と協力し、使い慣れた家具やなじみのものなどで、それぞれ个性的で居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所在が解るような掲示を行っている(トイレ等)		